

平成 30 年度 日本リンパ網内系学会 診療保険委員会議事録

平成 30 年 6 月 29 日 14:00~14:55

ウインクあいち会議室 903

出席者

委員長：伊豆津宏二、副委員長：木下朝博、委員：鈴宮淳司、岡本昌隆、永井宏和
福原規子、大橋璃子、石塚賢治、瀧澤淳、稲垣宏

欠席：中村直哉(他委員会のため)、富田直人(他委員会のため)

報告事項

1) 平成 30 年度診療報酬改定提案書

- ・ HBV 関連検査(HBsAg と HBsAb, HBcAb の同日算定、HBV-DNA モニタリングの算定)の提案 (日本血液学会との共同提案)は、不採用となった。
- ・ PET-CT 撮影前の CT 検査を不要とする提案(日本血液学会を主として提案)は疑義解釈の形で採用された。
- ・ EB ウイルス核酸定量 平成 30 年度診療報酬改定で保険収載(D023.8)。310 点
適応：PTLD, EBV+リンパ腫, CAEBV の診断・経過観察
一部の検査会社で受託(SRL)が始まっているが、一部検査会社にとどまる。

2) 医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬の要望

2018/3/23、原発性マクログロブリン血症/リンパ形質細胞リンパ腫に対するボルテゾミブ(III-(3)-1)が公知申請を経て適応追加承認された。

その他のこれまでの要望案件の経過は以下のとおり。

リツキシマブ CLL, R-FC 療法→治験 (JapicCTI-132285)

リツキシマブ 90 min 点滴, 4 mg/mL→治験 (JapicCTI-173663)

Cytarabine liposomal (III-(2)-3) 悪性リンパ腫に伴う髄膜播種→「医療上の必要性が高い」・開発の意思の申し出があった企業あり(企業名未公表)

レナリドミド MCL(III-(2)-10(グループ・ネクサス・ジャパン要望) →「医療上の必要性が高い」・開発要請(開発計画検討中)

チオテパ 中枢神経系リンパ腫 (移植前処置薬以外の適応) 2017/4 要望書提出

チオテパ DSP-1958 移植前処置は、本治験終了→拡大治験中 (JapicCTI-173654)
移植前処置について要望内容の変更を行った。

(変更前)自家又は同種造血幹細胞移植の前治療(成人及び小児)

(変更後) 下記疾患の自家造血幹細胞移植における前治療悪性リンパ腫 (ブスルファンとの併用)、小児固形癌 (メルファランとの併用)

審議事項

1) 今後の活動

平成 32 年度社会保険診療報酬改訂に向けての提案、医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議（厚生労働省）、医療ニーズの高い医療器械等の早期導入に関する検討会（厚生労働省）（体外診断薬も対象となる）、薬理作用に基づく医薬品の適応外使用事例の募集（日本医学会）の要望項目について意見を交換した。

それぞれ、メール審議にて提案の要否の検討を続け、担当者を決めて要望書・提案書の作成を行うこととした。

- 1) T-PLL に対するアレムツズマブ（医学的な必要性は明らかだが、「T 細胞性」CLL として使用している施設もあるが、施設によっては適応外使用であるため使用ができない）
- 2) リツキシマブ皮下注剤
- 3) EBV 陽性リンパ腫患者での経過観察目的の EBV-DNA 定量が 1 年を超えて算定できるように要望する。1 年を超えて継続的に経過観察を行う有用性を示すことが困難であり、当学会としては要望は見送る方針。
- 4) EBER-ISH、 $\kappa \cdot \lambda$ の ISH の体外診断薬の開発要望。
- 5) リンパ腫の診断に必要な遺伝子検査（MYD88 L265P, BRAF V600E, RHOA G17V）の算定。造血器腫瘍遺伝子検査として算定している施設あり。
- 6) FISH の複数項目の同時算定を可能とするように(Double hit, 骨髄腫・・・)
- 7) リンパ腫総合診断(FCM, FISH, 遺伝子検査+リンパ腫専門病理医による診断)の保険収載
- 8) ベンダムスチン治療患者での予防 ACV (薬理作用に基づく医薬品の適応外使用事例の募集)